

講義コード	4J006022
講義名	アロマセラピー
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 林 みどり	指定なし

担当教員

林 みどり

講義の目的

古い歴史を持つ自然療法の一つアロマセラピーについての基礎知識を理論と実践の両方から習得し、
日常の健康管理、さらには治療への応用ができるようにします。

到達目標

香りの有効な利用方法を状況に合わせてアドバイスできる医療人の育成を目指します。

授業計画表

授業計画

1. アロマセラピー概要
 2. 実践のための基礎知識
 3. 様々な利用方法について
 4. 精油学1-柑橘系香料
 5. 精油学2-ハーブ系香料
 6. 精油学3-フローラル系香料
 7. 精油学4-樹木・樹脂・スパイス系香料
 8. 植物油の特性
 9. 基材学1
 10. 基材学2
 11. 植物療法の歴史
 12. トリートメント実技
 13. メディカルハーブ
 14. 東洋医学とアロマセラピー
 15. アロマセラピーの最新事情
- *毎回、数種類の香りを嗅ぎます。

また、マッサージオイルやスプレーなど数種類の製品づくりも行います。

成績の評価

平常点20%、実技テスト20%、定期試験60%

自己学習

各項目で説明する安全な使用法をしっかりと復習して授業に臨んでください。

履修上の注意

- ・授業態度を重視します。
- ・製品づくりのための備品は自己保管し、必ず授業に持参すること。
- ・実習は各回の内容に応じて、試香・製品作成・トリートメントなどを行います。
濃縮された精油を使用するため、注意して保管・使用してください。

テキスト

プリント配布

参考文献

適宜紹介します。

講義コード	4J032011
講義名	フィットネス実習II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

講義の目的

最も適当な運動負荷を行う上で対象者の運動能力を知ることが重要なことである。そこで、本講座では体力測定の方法とその判定方法を学ぶとともに実際に測定、判定を行う。また、体力測定の結果を基にしてフィットネスプログラムを実際に作成しそれらを実際に行ってみる。

到達目標

個別性に対応したフィットネスプログラムを作成できるようにする。

授業計画表

授業計画

1. 体力測定の方法①
2. 体力測定の方法②
3. 体力評価とスポーツプログラム①
4. 体力評価とスポーツプログラム②
5. フィットネスプログラムの基本的な方法①
6. フィットネスプログラムの基本的な方法②
7. フィットネスプログラムの基本的な方法③
8. フィットネスプログラムの基本的な方法④
9. 子どものフィットネスプログラム
10. 中年のフィットネスプログラム
11. 高齢者のフィットネスプログラム
12. 女性のフィットネスプログラム
13. 障害者フィットネスプログラム
14. スポーツ相談の実際
15. スポーツ相談の実際

成績の評価

平常点40% 学習到達度40% 取り組み姿勢20%

自己学習

日頃の実践を心がける

履修上の注意

本科目は公認スポーツプログラマーの認定科目となっている。
実技は室内で行う場合と屋外で行う場合があるので注意すること。
服装は、伸縮性・通気性・吸水性の高い運動着とする。
靴は室内用と屋外用の運動用シューズを用意すること。
机が無くても筆記ができる準備をすること。
実習科目であるために体調管理に十分留意すること。

テキスト

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」

オフィスアワー

木曜日の昼休み

研究室

313研究室

授業用E-mail

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	4J033011
講義名	マイオケア（トリガー理論）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

講義の目的

トリガーポイントとは運動器の非侵害性疼痛の発生源を指す。講義でトリガーポイントに関する基礎的知識を学び、運動器慢性痛の治療におけるトリガーポイント治療の必要性を理解する。またトリガーポイント治療の基本となる、トリガーポイントの探し方や身体深部の加圧技術を身に付ける。

到達目標

運動器慢性疼痛の主要な責任トリガーポイントに触ることができ、実臨床で活用できる。

授業計画表

授業計画

1. 講義；トリガーポイントとは
2. 講義；トリガーポイント治療の適応判断と検索法
3. 講義；頸・肩の凝り・疼痛に係わるトリガーポイント
4. 実習；頸・肩の凝り・疼痛のトリガーポイント1
5. 実習；頸・肩の凝り・疼痛のトリガーポイント2
6. 実習；頸・肩の凝り・疼痛のトリガーポイント3
7. 実習；頸・肩の凝り・疼痛のトリガーポイント4
8. 講義；腰痛/坐骨神経痛に係わるトリガーポイント
9. 実習；腰痛のトリガーポイント1
10. 実習；腰痛のトリガーポイント2
11. 実習；腰痛のトリガーポイント3
12. 実習；坐骨神経痛のトリガーポイント1
13. 実習；坐骨神経痛のトリガーポイント2
14. 実技テスト1(前半)
15. 実技テスト2(後半)

成績の評価

テスト80%、平常点20%

自己学習

講義した専門用語については認知科学事典、神経学テキスト等で、実習する運動器の諸構造について、解剖学、運動学のテキストで調べる。実習した技術は身近な対象を見つけて反復練習する。

履修上の注意

技術修得に際し、教えられた技術と実行中の技術の差異評価(フィードバック)が無いと上達は望めない。フィードバックは監督者(教員)の客観評価と被術者の応答(評価)と云う形で与えられる。従って被術者が黙っていたり、眠っているはその役割を果たせない。役割を理解し、真摯に果たすべきである(果たしたかどうかは平常点に反映させる)。

テキスト

配布プリント

参考文献

「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院)
「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)河上敬介他

オフィスアワー

水曜12:30-13:00

研究室

診療・研究棟3F 306研究室

授業用E-mail

kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	4J034011
講義名	ヨガ (YOGA)
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 珠数 孝	指定なし

担当教員

珠数孝

講義の目的

ヨガ (YOGA) は、今や世界的に広がり、一般社会でも広く応用活用されている。日本に於いては、1980年国際総合ヨガ世界大会を日本で開催 (主催者 沖 正弘 (故人)) されて以後、急速に全国に普及した。今日では、ヨガは伝統文化 (5~6千年以前からの伝統行法) として国連にも認定され、身体的な健康だけではなく、心身の調和と「生活全体の調整」法として世界中で取り組まれている。将来を担う若者にその深い真意や有用性を、正しく伝え社会活動に応用できる力を身につけてもらいたい。ヨガを体操と捉えず、瞑想および道徳を通じて社会的健康を目指すことを身につける。

到達目標

ヘルスプロモーション整復学科の学生は、将来において各種スポーツ活動の基本的な動作、心のコントロールに活かしてもらいたい。また、リハビリテーションヨガとして、多角的に応用ができる可能性があるため、学生の個性に即して、学ぶ手立てをして、心・体・生活の面で役立てたい。また沖ヨガの特徴である歪み・偏り修正実技法&完全呼吸法の基礎技術をマスターさせたい。実習時間に限りがあるため、実技実習と理論の組み合わせは、副読本を有効に使いたい。

授業計画表

授業計画

1. 基本的なヨガの動作を体験する。
2. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
3. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
4. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
5. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
6. 個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。
7. 個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。
8. 個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。

- 9.個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。
- 10.ヨガの歴史と道徳について学ぶ
- 11.ヨガの歴史と道徳について学ぶ
- 12.ヨガ本来の哲学性と教育性を理解する。
- 13.ヨガの動作、呼吸法を他にアドバイスできるようになる。
- 14.ヨガの動作、呼吸法を他にアドバイスできるようになる。
- 15.ヨガを自己の生活にどう生かすかを習得する。

成績の評価

15週の間、実技&座学の組み合わせ学習を反復修練する。
この間には、技量の熟達度や理解度をチェックし努力の成果を評価。
後半には、総合評価として、個人の生活習慣・態度を含めて実技技術の度合を点数化する。
特に、欠席・遅刻・早退・授業態度・教科書・服装の忘れ物は、減点する。初回スタート時には、一人100点満点とする。以後は減点方式とする。運動靴。靴下不要。
(服装について) ファスナーのあるスラックスやシャツはケガの原因となるので禁止。

テキスト

イノチが喜ぶ生活ヨガ 発行所ノベル 珠数泰夫著

講義コード	4J039022
講義名	リハビリテーション各論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 高 義富	指定なし

担当教員

高 義富

講義の目的

臨床で要する評価、治療等を実践する上で多角的視野で論理的に物事が考えられる基盤をつくる。

到達目標

患者の障害像を把握し、治療プログラム等を立案できる思考過程を養う。

授業計画表

授業計画

1. 脳血管障害のリハビリテーション (1)
2. 脳血管障害のリハビリテーション (2)
3. 脳血管障害のリハビリテーション (3)
4. 脳血管障害のリハビリテーション (4)
5. 脳血管障害のリハビリテーション (5)
6. 脳血管障害のリハビリテーション (6)
7. 実習・実技
8. 実習・実技
9. 脊髄損傷のリハビリテーション (1)
10. 脊髄損傷のリハビリテーション (2)
11. 脊髄損傷のリハビリテーション (3)
12. 変形性関節症のリハビリテーション (1)
13. 変形性関節症のリハビリテーション (2)
14. 骨折のリハビリテーション (1)
15. 骨折のリハビリテーション (2)
16. リウマチのリハビリテーション (1)
17. リウマチのリハビリテーション (2)
18. リウマチのリハビリテーション (3)
19. 末梢神経障害のリハビリテーション (1)

20. 末梢神経障害のリハビリテーション（2）
21. 腰痛・五十肩のリハビリテーション
22. 関節可動域の異常
23. その他の運動器疾患のリハビリテーション
24. 実習・実技
25. 実習・実技
26. 糖尿病のリハビリテーション（1）
27. 糖尿病のリハビリテーション（2）
28. パーキンソン病のリハビリテーション
29. 呼吸・循環器系のリハビリテーション（1）
30. 呼吸・循環器系のリハビリテーション（2）

成績の評価

定期試験（80％）・平常点（受講態度などを含め20％）総合的に評価する。

自己学習

リハビリテーション総論の内容を復習しておくこと。

履修上の注意

積極的に取り組み、実習・実技で習ったことは全て習得するよう努力すること。

テキスト

「リハビリテーション医学（改訂版第3版）」

プリント配布

参考文献

「ベッドサイドの神経の診かた」（南山堂）

田崎義昭、斎藤佳雄共著

講義コード	4J048012
講義名	医学推計学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 博司	指定なし

担当教員

山本 博司

講義の目的

医学・医療の世界では医学推計学は必須の学問になっている。
 自ら研究するためだけでなく、医学論文を読み、理解し、日常の臨床に活かしていくために必要なのである。
 ここでは、単なる医学推計学に終わらず、その周辺の学問、疫学、EBM（根拠に基づいた医学）などを理解し、科学的思考ができるようにする。

到達目標

医学関連論文を正しく理解し、その内容を評価できるようになる。
 また、自分の臨床治療の基礎知識として活用できる。

授業計画表

授業計画

1. 医学の基礎（医学とは）
2. 医学の方法（医学が用いる手法）
3. 医学推計学の基礎（すべての現象を数値化する）
4. 代表値
5. 標準偏差、
6. 分布（正規分布）
7. 仮説検定：偶然に起こる確率を調べる。
8. 2群の比較：ランダム化比較試験（RCT）
9. 対応のないt検定①（F検定）
10. 対応のないt検定②
11. 対応のあるt検定③
12. t検定の応用
13. その他の検定
14. 筆記試験
15. 総括

成績の評価

授業に取り組む態度、筆記試験結果などから総合的に評価する。

自己学習

医学推計学の問題を自分で解くため、適時、宿題を出す。

履修上の注意

学んだ内容を自分で考えて、理解することを心がける。
授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は受験資格を失う。

テキスト

プリント配布

参考文献

適宜紹介する

オフィスアワー

月曜日・水曜日の昼休み、前もって予約していただければ可能な限り対応致します。

研究室

診療・研究棟 3階 312研究室

授業用E-mail

yamamoto@kansai.ac.jp

講義コード	4J054011
講義名	医療経営学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 大西 暁	指定なし

担当教員

大西 暁

講義の目的

皆さんが将来社会人になった時に役に立つよう、お金に関する知識を幅広く身に付けることができる講義にしていきます。

たとえ整骨院の開業を考えておられない方でも、お金に関する知識はきっと役に立つはずです。積極的にご参加ください。

到達目標

世の中の仕組みを知ったうえで、自分自身の考えで今後の人生を選択できるよう、基本的な考え方を身に付けることを目標としています。

授業計画表

授業計画

- 潰れる整骨院、その理由とは
- 整骨院のお金の流れについて知ろう
- 運転資金がなぜ大切か
- 開業するのにいくら必要なの
- お金を貯められる人、貯められない人
- 知らないと怖い住宅ローンの仕組み
- 銀行がお金を貸したくなる人、貸したくない人
- 10年後の自分の価値を上げる就職の仕方
- 知らないと損をする税金や社会保険
- 今後の自分の人生を自分で選択するための方法

成績の評価

定期試験で評価する。(100%)

自己学習

特になし

履修上の注意
特になし
テキスト
授業毎にレジユメを配布。
参考文献
特になし

講義コード	4J118011
講義名	健康スポーツ理論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

講義の目的

適切な運動は身体的にも精神的にも良い影響があることが知られている。本講座では運動を実際に行ったり、指導したりする上で必要な基礎知識を習得することを目的に、以下の事項について講義する。

到達目標

健康・体力を管理する基本的な知識や方法を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 運動と健康
2. フィットネス・エクササイズの理論①
3. フィットネス・エクササイズの理論②
4. フィットネス・エクササイズの理論③
5. フィットネス・エクササイズと健康管理①
6. フィットネス・エクササイズと健康管理②
7. ウォーミングアップとクーリングダウン
8. フィットネスプログラムの基本的な方法①
9. フィットネスプログラムの基本的な方法②
10. 子どものフィットネスプログラム
11. 中、高年者のフィットネスプログラム
12. 女性のフィットネスプログラム
13. 障害者のフィットネスプログラム
14. スポーツ相談の意義と実際
15. まとめ

成績の評価

平常点40% レポート30% 定期試験30%

自己学習

健康・スポーツに関する情報を収集する

履修上の注意

理論として理解することは大切なことであるが、それを普段の生活で実践するように心がける。
「スポーツプログラマー」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。
詳しくは、巻末を参照して下さい。

テキスト

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」
「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

オフィスアワー

木曜日の昼休み

研究室

313研究室

授業用E-mail

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	4J178011
講義名	神経科学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

担当教員

大島 稔

講義の目的

近年、脳神経系を中心とした神経科学は、その情報処理機構を解明することや、精神活動の機構を解明するとともに、脳神経系の病気に対する予防や治療法の開発など様々な分野において発展しつつある。この講義では、それらを理解するための神経系の基本的な概念について講義する。

到達目標

神経が、どのようにして構成されているのか、どのようにして興奮の伝導と伝達が行われるのかなど、下記に記した授業計画の基本的なことを理解できることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 神経系の分類
2. 神経の構造と機能
3. 興奮の伝導と伝達
4. 興奮の伝導と伝達
5. 大脳の構造と機能
6. 間脳と脳幹、小脳、脊髄の構造と機能
7. 伝導路
8. 末梢神経系
9. 自律神経系
10. 生体のリズム
11. 運動(神経筋接合部と運動単位)
12. 運動(反射)
13. 視覚
14. 聴覚と味覚、嗅覚
15. 体性感覚

成績の評価

試験（ 点）で評価します。

自己学習

下記に示す参考文献をもとに予習と復習をしてください。

履修上の注意

座席指定を行い、そこに座っていることで出席を取ります。

テキスト

指定しない

参考文献

「生理学」南江堂
根来英雄、貴邑富久子 著

オフィスアワー

時間があるときであれば、いつ部屋に来ていただいても対応します。

研究室

診療・研究棟4階404研究室

授業用E-mail

ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	4J214011
講義名	整復総合演習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学分野
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし
教員	五十嵐 純	指定なし

担当教員

高岸美和、津田和志、牛島詳力、尾原弘恭、井口理、山原正美

講義の目的

現状まで、各履修してきた臨床医学(一般臨床医学・運動学・外科学・整形外科学・リハビリテーション医学)を、実際に柔道整復を実践する際、その判断材料として活かせるよう総合的・応用的な知識としてつなげることを目的とする。

到達目標

臨床医学野内容と柔道整復とをリンクさせ理解し実践へつなげられる知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

【授業計画】

1. 柔道整復と臨床医学1
2. 柔道整復と臨床医学2
3. 柔道整復と臨床医学3
4. 柔道整復と臨床医学4
5. 柔道整復と臨床医学5
6. 柔道整復と臨床医学6
7. 柔道整復と臨床医学7
8. 柔道整復と臨床医学8
9. 柔道整復と臨床医学9
10. 柔道整復と臨床医学10
11. 柔道整復と臨床医学11
12. 柔道整復と臨床医学12
13. 柔道整復と臨床医学13
14. 柔道整復と臨床医学14

15. 柔道整復と臨床医学15
16. 柔道整復と臨床医学16
17. 柔道整復と臨床医学17
18. 柔道整復と臨床医学18
19. 柔道整復と臨床医学19
20. 柔道整復と臨床医学20
21. 柔道整復と臨床医学21
22. 柔道整復と臨床医学22
23. 柔道整復と臨床医学23
24. 柔道整復と臨床医学24
25. 柔道整復と臨床医学25
26. 柔道整復と臨床医学の総合的まとめ1
27. 柔道整復と臨床医学の総合的まとめ2
28. 柔道整復と臨床医学の総合的まとめ3
29. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ4
30. 柔道整復と臨床医学の総合的まとめ5

成績の評価

試験100%にて評価。なお詳細についてはガイダンス時に説明を行う。

自己学習

3年次までに学習した臨床医学（一般臨床医学・外科学・整形外科学・運動学・リハビリテーション医学）の知識の再確認を事前しておくこと。

履修上の注意

この科目は国家試験ともつながる科目であるので、各自が国家試験を想定して積極的に学習することを望む。毎回、出席を確認し、遅刻³回につき¹回の欠席とする。

テキスト

臨床医学に関する教科書

参考文献

「柔道整復師国家試験出題基準」 （医歯薬出版社）
(財)柔道整復研修試験財団 編
3年次までに当該科目で指定された参考図書

オフィスアワー

前期：月曜 放課後（16:40～18:00）

後期：金曜 放課後（16:40～18:00）

研究室

診療・研究棟4階 415研究室

授業用E-mail

takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	4J215011
講義名	整復総合演習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学分野
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純、畑村 育次、戸村 多郎、高岸 美和

講義の目的

現状まで、各履修してきた基礎的な医学（解剖・生理・病理）の内容を実際に柔道整復師として臨床に対応する際に、その判断材料として活かせるよう総合的・応用的な知識としてつなげることを目的とする。

到達目標

基礎的な医学と柔道整復とをリンクさせ理解し実践へつなげられる知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 柔道整復と基礎医学1
2. 柔道整復と基礎医学2
3. 柔道整復と基礎医学3
4. 柔道整復と基礎医学4
5. 柔道整復と基礎医学5
6. 柔道整復と基礎医学6
7. 柔道整復と基礎医学7
8. 柔道整復と基礎医学8
9. 柔道整復と基礎医学9
10. 柔道整復と基礎医学10
11. 柔道整復と基礎医学11
12. 柔道整復と基礎医学12
13. 柔道整復と基礎医学13
14. 柔道整復と基礎医学14
15. 柔道整復と基礎医学15
16. 柔道整復と基礎医学16
17. 柔道整復と基礎医学17

18. 柔道整復と基礎医学18
19. 柔道整復と基礎医学19
20. 柔道整復と基礎医学20
21. 柔道整復と基礎医学21
22. 柔道整復と基礎医学22
23. 柔道整復と基礎医学23
24. 柔道整復と基礎医学24
25. 柔道整復と基礎医学25
26. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ1
27. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ2
28. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ3
29. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ4
30. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ5

成績の評価

試験100%にて評価。なお詳細についてはガイダンス時に説明を行う。

自己学習

3年次までに学習した基礎医学（解剖・生理・病理）の内容について、再度自主的に学習し知識の再確認を事前しておくこと。また、講義終了後、知識が不十分なところの復習を行うこと。

履修上の注意

この科目は国家試験ともつながる科目であるので、各自が国家試験を想定して積極的に学習することを望む。毎回、出席を確認し、遅刻3回につき1回の欠席とする。

テキスト

解剖学・生理学・病理学の教科書

参考文献

「柔道整復師国家試験出題基準」 (医歯薬出版株式会社)
(財)柔道整復研修試験財団 編

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	4J216011
講義名	整復総合演習Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学分野
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし
教員	五十嵐 純	指定なし

担当教員

尾原弘恭、植田扶美子、牛島詳力、井口理、織田育代、山原正美

講義の目的

現状まで、各履修してきた整復学総論・整復学各論・実技Ⅰ～Ⅴと、柔道整復を実践する際に必要な関係法規・衛生・公衆衛生学とを横断的に学修し柔道整復の実践へと活かせるようにする。

到達目標

柔道整復を実践する際に必要な総論・各論や関係諸法規・衛生・公衆衛生学を理解し各内容をリンクさせ理解し実践へつなげられる知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 柔道整復 1
2. 柔道整復 2
3. 柔道整復 3
4. 柔道整復 4
5. 柔道整復 5
6. 柔道整復 6
7. 柔道整復 7
8. 柔道整復 8
9. 柔道整復 9
10. 柔道整復 10
11. 柔道整復 11
12. 柔道整復 12
13. 柔道整復 13
14. 柔道整復 14
15. 柔道整復 15
16. 柔道整復 16

- 17. 柔道整復17
- 18. 柔道整復18
- 19. 柔道整復と衛生・公衆衛生1
- 20. 柔道整復と衛生・公衆衛生2
- 21. 柔道整復と衛生・公衆衛生3
- 22. 柔道整復と衛生・公衆衛生4
- 23. 柔道整復と衛生・公衆衛生5
- 24. 柔道整復と関係法規1
- 25. 柔道整復と関係法規2
- 26. 柔道整復総合的まとめ1
- 27. 柔道整復総合的まとめ2
- 28. 柔道整復総合的まとめ3
- 29. 柔道整復総合的まとめ4
- 30. 柔道整復総合的まとめ5

成績の評価

試験100%にて評価。なお詳細についてはガイダンス時に説明を行う。

自己学習

3年次までに学習した柔道整復関係医学（整復学総論・各論・関係法規・衛生・公衆衛生学）の知識の再確認を事前しておくこと。

履修上の注意

この科目は国家試験ともつながる科目であるので、各自が国家試験を想定して積極的に学習することを望む。毎回、出席を確認し、遅刻3回につき1回の欠席とする。

テキスト

整復学総論・各論・関係法規・衛生・公衆衛生学に関する教科書

参考文献

「柔道整復師国家試験出題基準」 （医歯薬出版社）
(財)柔道整復研修試験財団 編
3年次までに当該科目で指定された参考図書

オフィスアワー

水曜：午後

研究室

診療・研究棟3階 310研究室

授業用E-mail

ohara@kansai.ac.jp

講義コード	4J217011
講義名	整復臨床実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	整復実技分野
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

担当教員

井口理、牛島詳力、織田育代、山原正美

講義の目的

大学附属接骨院において実施される。臨床実習を通じて3年次までに学習してきた各分野を総合的にリンクさせ、理解を深めることや技術の向上を目的とする。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。

本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

到達目標

臨床の現場における仕事の流れを理解するとともに、患者様の状態を評価する。それに対する施術プログラムを立案し、施術や指導をするために必要な柔道整復実技と総合的な知識を習得することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 情報収集・問診
3. 医師との連携
4. 療養費支給基準①
5. 療養費支給基準②
6. 療養費支給基準③
7. 整復臨床実習①
8. 整復臨床実習②
9. 整復臨床実習③
10. 整復臨床実習④
11. 整復臨床実習⑤
12. 整復臨床実習⑥
13. 整復臨床実習⑦

14. 整復臨床実習⑧
15. 総合実技演習①
16. 総合実技演習②
17. 総合実技演習③
18. 総合実技演習④
19. 整復臨床実習⑨
20. 整復臨床実習⑩
21. 整復臨床実習⑪
22. 整復臨床実習⑫
23. 整復臨床実習⑬
24. 整復臨床実習⑭
25. 整復臨床実習⑮
26. 整復臨床実習⑯

成績の評価

整復臨床実習総合試験で評価し判定する。但し、この試験は整復臨床実習総合中間試験（全4回）をすべて受験すること、整復臨床実習総合実技試験に合格すること、整復臨床実習レポートに合格することのすべてを満たすことが受験要件となる。

自己学習

3年次までに学習してきた内容を復習すること。

履修上の注意

実習は授業時間外にも実施することがある。
授業時間内あるいは時間外に整復臨床実習総合実技試験を実施する。
授業時間外に整復臨床実習総合中間試験を4回実施する。
日程については別途通知する。
積極的に取り組むこと。
原則、欠席・遅刻は認めない。
実際の患者さんと接するため身だしなみや言動に留意すること。
詳細については「整復臨床実習要項」に従うこと。

テキスト

「柔道整復学 理論編」(南江堂) 公益社団法人 全国柔道整復学校協会
「柔道整復学 実技編」(南江堂) 公益社団法人 全国柔道整復学校協会
その他臨床に関連する教科書

講義コード	4J230013
講義名	生命倫理
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 武田 眞太郎	指定なし

担当教員

武田眞太郎

講義の目的

近代医学。医療の急激な進歩に伴って表面化してきた人間の生と死をめぐる諸問題を俎上に載せ、基本的人権としての生存権、生活権、健康権とともに、医療の場における患者の基本的権利がいかん保障されるべきかについて考究する。

到達目標

医療の担い手の基本的な資質として求められる患者の権利を尊び守る態度の涵養を図る。

授業計画表

授業計画

1. 医学・医療の進歩と生命倫理
2. 世界保健憲章・世界人権宣言・経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約にみられる「健康権」の概念
3. アメリカおよびナチス・ドイツにみられた優生思想の社会的展開
4. 「ヘルシンキ宣言」と「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
5. インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
6. 脳死と臓器移植
7. 尊厳死をめぐる
8. 安楽死と尊厳死の流れ
9. 生殖補助医療の現状
10. 生殖補助医療と生まれる子どもの権利
11. 遺伝子治療をめぐる
12. 再生医療の進歩をめぐる
13. 少子高齢社会における生命の価値
14. 経済発展と生命尊重 — 事例からみた企業の社会的責任
15. 総括

成績の評価

定期試験（ %）および毎回提出のレポート（ %）により評価する。

自己学習

必要に応じて適宜指示する。

履修上の注意

学友の迷惑にならないよう授業中の私語、中途入退室、携帯メールの使用などは厳に慎むこと。

テキスト

指定しない。プリントを配布する。

参考文献

関係個所で、適宜紹介する。

講義コード	4J259011
講義名	中医学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王財源	指定なし

担当教員

王財源

講義の目的

薬膳学の基本概念のひとつに「医食同源」ということばがあります。「すべての食べものは薬に通じる」という考え方です。人は「美しく、健康でありたい」という願いがあり、食の文化のなかでは、薬膳にこれらの知恵が活かされています。本講義では中国の伝統医学を学び、中国古代の自然観の一つである陰陽や五行を用い、私たちが治療現場で患者さんの身体の健康を補うために薬膳を学び、中国の伝統医療文化に脈打つ人体、生理観について知識を深め、現代人の食生活の改善による、美しく、健康でありたいという「食の文化」を学問的に考察します（中医薬膳）。

到達目標

- ①患者の食生活に対して伝統医学的視点よりアドバイスを行うことで、患者さん体質改善をサポートし、疾病の発生を予防する。
- ②中国伝統医学を軸足とした食膳指導能力者の育成を目指す。

授業計画表

授業計画

- 1.歴史の変遷を通じて学ぶ中国伝統医学（中医学）
- 2.中国哲学に潜む「気」の医学
- 3.天人合一思想を基礎とした整体観
- 4.生体における陰陽論と五行学説
- 5.テーラーメイド医療を実現させた中医弁証学
- 6.体内情報のネットワーク「経絡」
- 7.中医薬膳学とその特徴
- 8.中医学における食品の捉え方
- 9.虚弱体質に対する薬膳の概念
- 10.薬膳料理の基本
- 11.体質に合わせた薬膳
- 12.臓腑の働きを促し症状を改善する薬膳

- 13.若返り養生食の作製と禁忌食
- 14.美容美肌と老化防止の薬膳学
- 15.総括・質問

成績の評価

試験80%・レポート20%

自己学習

短期間の学習となるため、参考文献で中国伝統医学に対する予備知識を高めておくことと聴講の助けとなります。

履修上の注意

講義の進行状況に合わせて講義内容が前後することがあります。また、中途退席は欠席とします。また、レポート評価は出題テーマと一致したもので、新しい発見があり、さらにそれらを公的な出版物を介して検証できたものが望ましい。ネットや書籍よりのコピーが必要な場合は引用先を明確にし、出題テーマとの整合性を鑑みておくこと。

テキスト

『中医薬膳学』（東洋学術出版社）辰巳洋

参考文献

『わかりやすい臨床中医臓腑学』第3版（医歯薬出版）王財源
『入門・目でみる臨床中医診断学』（医歯薬出版）王財源

オフィスアワー

木曜日午後。
面談時には事前にメールで連絡してください。

研究室

診療・研究棟4F 413号室

授業用E-mail

cai@kansai.ac.jp

講義コード	4J271011
講義名	統合医療（代替医療）Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 上田 至宏	指定なし

担当教員

上田 至宏

講義の目的

医療には、技術革新が進む先端医療をはじめとした近代西洋医学と地域文化・伝統に根ざした多様な伝統医学や相補・代替医療があります。統合医療とは、西洋医学にそれら医療を加えることによって、患者が自ら癒すことを重視し、病気の治療から疾病の超早期発見や予防、根治、健康維持の増進などを目指そうするものです。

そこで患者が本当に必要な医療を自らの意志で選択し得る、そんな医療環境が整っていくためにも、統合医療の体系化が求められます。ここでもっとも重要となるのは、各医学の特長と課題を正しく把握し、患者本位のより良い医療を知る姿勢です。

こうした背景をもとに、ヘルスプロモーションを志す諸君らに統合医療の推進役として大きな期待が寄せられています。この講義では統合医療の考え方の基礎を学び将来の柔道整復師像を描いていただくことを目的とします。

到達目標

統合医療について説明できる。

伝統医療・代替医療について説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 統合医療について、総論
2. 伝統医療と代替医療
3. 代替医療の歴史と現状
4. IM研究 (EBM)、治療と治癒
5. 伝統医療 (1) (東アジア：日中韓)
6. 伝統医療 (2) (アーユルベータ)
7. 伝統医療 (3) (チベット医学)
8. 伝統医療 (4) (密教医学)
9. 伝統医療 (5) (上記以外)
10. 代替医療 (1) (ホメオパシー)

11. 代替医療 (2) (エネルギー療法)
12. 代替医療 (3) (呼吸療法、色彩療法)
13. 代替医療 (4) (催眠療法、音楽療法)
14. 代替医療 (5) (心身医学)
15. 代替医療 (6) (その他)

成績の評価

レポートと平常点により評価します。

自己学習

こちらから課す項目をインターネット等で調べ、講義の中で各自の意見考えを述べていただけるように。

履修上の注意

楽しくやりましょう。時々、ワークを行います。

テキスト

「癒す心・治る力」 (角川書店) アンドルー・ワイル

参考文献

インターネットで各自が調べてください。

講義コード	4J272011
講義名	統合医療（代替医療）Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 上田 至宏	指定なし

担当教員

上田 至宏

講義の目的

統合医療（代替医療Ⅰ）に同じ
後期では食と栄養、健康/ウェルネスについて考える。

到達目標

機能的食品・健康食品等について説明できる。
健康と予防について統合医療の立場から説明できる。
今必要な統合医療と医療経済について説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 食と栄養（1）栄養医学
2. 食と栄養（2）サプリメント
3. 食と栄養（3）機能的食品
4. 食と栄養（4）ハーブと伝統食
5. 食と栄養（5）その他
6. 健康/ウェルネス（1）考え方
7. 健康/ウェルネス（2）ホメオスタシス
8. 健康/ウェルネス（3）心とからだ
9. 健康/ウェルネス（4）老化予防
10. 健康/ウェルネス（5）予防プログラム
11. 健康/ウェルネス（6）生きがい
12. 徒手医学、温熱療法
13. 瞑想、座禅
14. 統合医療と医療経済
15. 統合医療まとめ、質疑応答

成績の評価

レポートと平常点により評価します。

自己学習

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ

履修上の注意

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ

テキスト

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ

参考文献

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ

講義コード	4J318011
講義名	保健医療福祉概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 武田 眞太郎	指定なし

担当教員

武田眞太郎

講義の目的

ヘルスプロモーションの考えを基本として、人びとの健康権を保障する保健・医療・福祉のそれぞれの役割、制度、専門職の職務について総合した概要を述べる。

到達目標

本科の卒業後の進路としては独立開業だけではなく、種々の医療・福祉施設など幅広い分野が想定される。これらの保健・医療・福祉の各分野の社会的役割が認識できることをねらう。

授業計画表

授業計画

1. 人々の基本的権利としての「健康権」をめぐって
2. 健康権を保障する保健・医療・福祉の役割
3. 保健。医療・福祉が目指す社会像
4. 保健・医療・福祉の専門性
5. 保健・医療制度の大綱
6. 社会保障制度の大綱
7. 社会保障制度の現状
8. 社会保障制度の課題
9. 経済発展と人口構造の変化
10. 経済発展と疾病構造の変化
11. 少子高齢社会の利点と欠点
12. 個を中心に据えた保健・医療・福祉の連携
13. 保健・医療・福祉にかかわる専門職の職務
14. 保健・医療・福祉の専門性と個人情報
15. 総括

成績の評価

全体についての質疑応答の後、筆答による期末試験を実施

自己学習

必要に応じて適宜指示する。

履修上の注意

授業中の私語、携帯メールの使用などは厳に慎むこと。

テキスト

「公衆衛生学（四訂）」（培風館）武田・宮下著 およびプリント配布

参考文献

関係の箇所を、適宜紹介する。

講義コード	4J338011
講義名	薬学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

講義の目的

薬の発見とその開発について歴史的な背景をふまえ概略を学ぶ事に講義の目的をおきます。近年注目を浴びているジェネリック医薬品の紹介等、身近な医薬品を例に挙げ説明をします。

到達目標

薬とは何か、またどのように開発されるのかが理解できる事を目標とします。

授業計画表

授業計画

1. 講義概要・薬とはなにか
2. 薬の名前 ジェネリック医薬品
3. 医薬品の分類, 医療制度
4. 薬の作用(薬がなぜ効くのか)
5. 薬の作用(薬がなぜ効くのか)
6. 医薬品開発
7. 天然物からの医薬品(キニーネ, キニジン)
8. 薬害と薬事行政の変革 I
9. 薬害と薬事行政の変革 II
10. 天然物からの医薬品検索(モルヒネ, 麻薬)
11. 天然物からの医薬品検索(エフェドリン, 覚せい剤)
12. 天然物からの医薬品検索(抗腫瘍薬)
13. 糖尿病の治療薬とその検査
14. 脂質代謝異常症の治療薬とその検査
15. 免疫と薬

成績の評価

レポート 70% 授業中の提出物 30% で評価します。

自己学習

興味のある人は図書館等で有機化学の本, 生薬の本を読んで基礎知識を広げてください。

履修上の注意

第1週目は、出席の取り方などのガイダンスを合わせて行います。配布プリントはレポート時に必要となりますので必ず保管をしてください。再配布はしません。

テキスト

毎回プリントを配布します。

参考文献

『資源天然物化学』秋久俊博ら著（共立出版）
その他、講義中に紹介します。

研究室

管理棟2階209研究室

授業用E-mail

onisi@kansai.ac.jp

講義コード	4J348011
講義名	臨床疫学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 尉林 鈴	指定なし

担当教員

尉林 鈴

講義の目的

医学・医療の世界では医学推計学は必須の学問になっている。疫学 (Epidemiology) はある集団を対象として疾病頻度とその分布を観察し、その原因を究明する学問である。本講座は臨床研究を含む社会健康医学領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行う。受講者は将来、医療人として現場で働くときに役立つ臨床疫学について学習する。

到達目標

身につけた臨床疫学の基礎知識に基づいて、現場で出会った様々な症例の診断や治療、さらに予防の妥当性を評価できる。

授業計画表

授業計画

1. 第1週：臨床医学概論①
2. 第2週：臨床疫学概論②
3. 第3週：疫学の具体例①
4. 第4週：疫学の具体例②
5. 第5週：因果関係
6. 第6週：疾病の自然史
7. 第7週：疫学研究デザイン①記述疫学
8. 第8週：疫学研究デザイン②分析疫学
9. 第9週：疫学研究デザイン③実験疫学
10. 第10週：課題研究提出
11. 第11週：課題研究検討①
12. 第12週：課題研究検討②
13. 第13週：臨床疫学の具体例
14. 第14週：筆記試験
15. 第15週：まとめ

成績の評価

授業に取り組む態度、筆記試験結果などから総合的に評価する。

自己学習

授業内容の理解を深める為、疫学についての小冊子を配布し、予習をするように指導する。

履修上の注意

授業では疫学に関するディスカッションを多く取り入れる。従って、授業中は私語を慎み、講義内容に集中すること。治療家にとってコミュニケーション能力は最重要課題であるから、積極的に先生やクラスメイトの意見を聞き、自分の考えを述べること。

テキスト

プリント配布

参考文献

- 「EBMがわかる 疫学と臨床判断」 (新興医学出版社)
原野悟著
「疫学入門演習—原理と方法—」 (南山堂) 田中平三著
「疫学—原理と方法—」 (丸善株式会社)
MacMahon & Pugh 著金子義徳・額田粲・廣畑富雄共訳社

オフィスアワー

授業終了後、そのまま教室にて不明な点や質問等を受け付ける。

講義コード	4J359011
講義名	臨床整復学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学分野
科目ナンバリング	
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 門脇 伸幸	指定なし

担当教員

門脇 伸幸

講義の目的

実戦に即した力をつける。

到達目標

日常の臨床・実践に即した考え方・実技を学ぶ。

授業計画表

授業計画

1. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 1
2. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 2
3. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 3
4. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 4
5. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 5
6. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 6
7. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 7
8. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 8
9. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 9
10. 臨床の理論・各論・実践 (上肢) 10
11. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 1
12. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 2
13. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 3
14. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 4
15. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 5
16. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 6
17. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 7
18. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 8
19. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 9
20. 臨床の理論・各論・実践 (体幹) 10

- | | |
|----------------------|----|
| 21. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 1 |
| 22. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 2 |
| 23. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 3 |
| 24. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 4 |
| 25. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 5 |
| 26. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 6 |
| 27. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 7 |
| 28. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 8 |
| 29. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 9 |
| 30. 臨床の理論・各論・実践 (下肢) | 10 |

成績の評価

筆記試験 (100%)

自己学習

理論・各論の再予習・テーピング・固定の復習

テキスト

その都度配布
